

物流施設や産業団地の整備・開発事業などを手掛けるエム・ケー（東京都日野市）の小林勤社長（73）は「2016年もこれまで通り、得意分野で爾々と事業を推進していく」と新年の抱負を語る。

近年、同社を取り巻く状況は変化している。大手不動産事業者も尻込みする市街化調整区域の開発や区画整理事業で積み重ねた実績が行政などから高く評価されるようになり、小林社長は「いろいろな方からお声掛けをいただき、以前より営業がしやすくなった」と実感している。

「エム・ケー社長」
小林 勤氏

「社会貢献を強く意識するようになってきている」と小林社長



現在、東京、神奈川、埼玉など南関東を中心に事業を展開。首都圏中央連絡自動車道（圏央道）と東北自動車道が、物流施設需要は落ち込んでいないとみている。

「引き続き、物流事業者へ貢献できるような開発を進めていきたい」と行政などからの評価の高まりのほか、15年優良企業表彰（東京都信用金庫協会主催）で

得意分野で事業推進

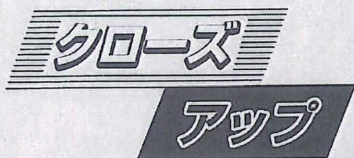
「引き続き、物流事業者へ貢献できるような開発を進めていきたい」と行政などからの評価の高まりのほか、15年優良企業表彰（東京都信用金庫協会主催）で

は、最高賞の「しんきんめぐり大賞」を受賞。第11回（13年）多摩ブルー・グリーン賞表彰（多摩信用金庫主催）では、「地域活性化に向けた大規模市街化調整区域の開発」で多摩グリーン賞（経営部門）最優秀賞を受け、第13回（15年）でも「ともにまちづくりを」社会のニーズにこたえるヘッドリース事業で優秀賞に選ばれた。ヘッドリース事業が優秀賞を受けたのは、地域課題

後継体制しっかり整備

の解決を社会的使命と捉え、保育園や介護施設の土地活用に積極的に取り組む。共性が重要で、街としてブラスになるような開発でないといけない」と話す。

「指名」されて事業の打診を受けることもあり、社が評価してくれている。一つひとつきちんと実績を重ねてきた結果が、今の成果に結び付いていると感謝する。



み実績を上げたのが理由。小林氏は「最近、社会貢献を強く意識するようになってきている。結局、事業には公

来年は創業30周年を迎える。「一つの区切り。後継体制もしっかりと整備する。5年先、10年先も同じような形で発展していきたい。ヘッドリース、大規模開発、そして再開発にも取り組まないといけない」（高橋朋宏）